

科目区分	専門教育科目	科目名	障がい児保育		科目コード	17Y440	担当者	島田 幸一郎			
対象学生	幼児教育学科2年生	学期区分	通年	単位数	2	卒業要件	選択				
						免許・資格要件	保育士必修				
科目の主題						学修成果との関連（大◎、中○、小△）					
障がい児保育の意義と理念を理解し、発達段階に応じた支援と連携の大切さを理解する。						1. 「 <b>尽心</b> 」 誠実な人柄と人間力	2. 「 <b>創造</b> 」 高度な知性と創造力	3. 「 <b>実践</b> 」 明確な意思と実践力			
科目の到達目標						① 誠実性・真摯性	② 多様性・協働性	③ 知識・技能	④ 思考・判断力	⑤ 実行力・自立性	⑥ 就業力・貢献力
1.	発達段階、各種障がいに応じた支援・配慮の大切さを理解する。										
2.	各種障がいの特性と支援・配慮の内容を理解する。										
3.	障がい児保育における課題設定・実践・評価などの視点の大切さを理解する。										
4.	保護者・関係機関等との連携・協働の大切さを理解する。					◎	○	◎	○	◎	○
5.						成績評価の方法と割合					
授業方法						定期試験（70%） 提出物（20%） 受講態度（10%）					
講義を基本とするが、障がいの理解に関しては映像の視聴や関係者による講話などの機会を設け、より具体的な理解に努めたい。また指導法については、個人やグループで計画・実践する構成も取り入れたい。											
準備学修						課題等への対応					
「障害者差別解消法」の施行にともない、障がいのある子どもを取り巻く保育・教育環境が大きく変化してきている。日頃から、保育・教育・福祉などに関わる施策の動向に留意してほしい。なお、障がいの種類や支援・配慮事項など学習することが多岐にわたるので、予習・復習に年間4～5時間は確保してほしい。						提出物は点検し、次授業で確認する。必要に応じてクラス全体に紹介する。グループ学習についても同様である。					
授業計画											
第1回	障がい児保育の意義				第16回	障がい児の理解（脳性まひ）					
第2回	障がいのある子どもの理解				第17回	障がい児の理解（視覚障がい）					
第3回	障がい児保育の理念と形態				第18回	障がい児の理解（聴覚障がい）					
第4回	障がい児保育の現状と課題				第19回	障がい児の理解（てんかん）					
第5回	障がい児保育の歩み				第20回	障がいのある子どもの保育の方法（Ⅰ）					
第6回	発達の理解（Ⅰ）				第21回	障がいのある子どもの保育の方法（Ⅱ）					
第7回	発達の理解（Ⅱ）				第22回	障がいのある子どもの保育の方法（Ⅲ）					
第8回	障がい児の原因的理解				第23回	障がい児保育の計画（Ⅰ）					
第9回	障がい児の理解（知的障がい）				第24回	障がい児保育の計画（Ⅱ）					
第10回	障がい児の理解（身体障がい）				第25回	障がい児保育の計画（Ⅲ）					
第11回	障がい児の理解（自閉症スペクトラム）				第26回	障がい児保育の実践と評価（Ⅰ）					
第12回	障がい児の理解（ADHD・LD）				第27回	障がい児保育の実践と評価（Ⅱ）					
第13回	障がい児の理解（コミュニケーション障がい）				第28回	障がい児保育の実践と評価（Ⅲ）					
第14回	気になる子どもの理解				第29回	障がいのある子どもの保護者支援（Ⅰ）					
第15回	障がい児保育の指導				第30回	障がいのある子どもの保護者支援（Ⅱ）					
教科書・参考書				受講生へのメッセージ							
「新・障害のある子どもの保育」 伊藤健次 編 みらい				障がいについての基本的理解はもちろんだが、保護者や関係機関等と積極的に連携し、その子の実態に沿った支援に計画的に取り組むことが求められる。しっかり学んで、「一人ひとりを大事にする」信頼される保育士を目指してください。							